

乳がんは早期発見で 90%以上の確率で完治

がんにもいろいろな種類がありますが、七尾市で受診率の低い乳がんのお話をします。

乳がんにかかる人は年々増え、16人に1人が乳がんにかかるといわれています。また、ほかのがんと比べ、若い人がかかる割合が多くなっています。

乳がんの検診や診断の流れは、問診や視触診、マンモグラフィや超音波検査を行い、必要があれば、細胞だけをとる細胞診や小さな肉の塊をとる組織診を行います。

次に治療の流れでは、基本的にはまず手術を行います。最近では、術前化学療法といって、手術の前に抗がん剤治療をすることがあります。手術では、乳房を全部取ってしまう乳房切除と乳房の大部分を残す乳房温存術があります。その後、乳がんの性質や病期に応じて無治療で終わったり、抗がん剤やホルモン剤を追加したりします。

乳がんで、早期発見をするためには、自己健診やがん検診を受診することが大事です。自己健診は、鏡の前でチェックしてください。腕を上げて、乳房にくぼみや引き連れがないかを見てください。次に仰向けになり、4

本の指の腹で乳房の外内側を触ってください。脇の下にくぐりくぐりがないかチェックしてください。自己健診は、生理が終わって3日後くらいが適当でしょう。

早期乳がんの状態で見えざれると、90%以上の確率で治り、乳房が残せます。また、脱毛などの副作用を引き起こす抗がん剤治療をしなくても済む可能性が高くなります。

がんは早期発見が重要です。ということは、がん検診が重要であることを意味します。面倒がらず、がん検診に足を運ぶことをお勧めします。

3人に1人がメタボリックシンドローム 結果を見て「ハッ」とすることが!

七尾市での平成23年度特定健診の結果、受診者3人に1人がメタボリックシンドローム該当者予備群です。肥満、血圧、血糖が高めの組み合わせの人が多くですね。また、メタボリックシンドローム以外も含め、全受診者の約7割が高血糖傾向にあります。特に、初めて受診した人や治療中断者が多くですね。

国の研究班の調査では、メタボリックシンドロームによって引き起こされる病気の発症危険度は、生活習慣病と大きく関係しています。

糖尿病、脳卒中、心筋梗塞などの生活習慣病の患者は年々増加しています。これらの生活習慣病は、特に内臓に脂肪が蓄積した肥満から生活習慣病を引き起こす犯人であると考えられます。内臓脂肪蓄積により、さまざまな病気が引き起こされた状態を、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)と呼んでいます。

特定健診は、生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的としています。特にメタボリックシンドロームに着目し、この該当者および予備群を減少させるための特定保健指導を

必要とする人を、的確に抽出するために行うものです。40〜74歳までの各医療保険加入者全員が対象となります。

健診は、通院している人ほど大事です。実は、健診は病気を予防するだけではなく、今ある病気を重症化させないためにも大事なのです。

特定健診には、普段受診している検査項目以外も入っているため、結果を見て「ハッ」とすることもあります。健診を実施している医療機関は多いので、ぜひ、かかりつけ医にご相談ください。



恵寿総合病院 副院長 兼 消化器病センター長

鎌田 徹 氏

Toru Kamata

【PROFILE】

石川県珠洲市生まれ。
1984年山形大学医学部卒、
同年金沢大学第2外科入局。
その後金沢赤十字病院、富山労災病院、富山市民病院
などでの勤務を経て、1993年に恵寿総合病院に着任、
2008年から恵寿総合病院副院長となり現在に至る。

日本外科学会認定医、日本消化器学会専門医、
日本消化器学会指導医、日本外科学会指導医、
日本外科学会専門医



公立能登総合病院 健診部 部長 兼 能登島診療所 所長

朝日 俊明 氏

Toshiaki Asahi

【PROFILE】

北海道札幌市生まれ
1986年金沢医科大学医学部卒、
同年愛媛大学旧第一外科(現肝胆膵移植外科)に入局。
その後今治市医師会市民病院、いの町立仁淀病院、
久万高原町立病院など勤務。
2006年から上海グリーンクリニック院長として勤務。
2010年公立能登総合病院健診部部長に就任。
2012年能登島診療所所長兼任、現在に至る。

日本医師会認定産業医、人間ドック認定医、
日本外科学会専門医